

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

令和元年6月4日(第7号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 体育祭の報告 パート2 ◆◆

今年の各ブロックの旗は、ご来場頂いた来賓の方々や保護者の皆様に大変評判が高かったです。是非学校便りで紹介してあげてほしいという声がかかりました。審査結果の詳細までは知りませんが、下に紹介する旗が、各ブロックを奮い立たせていました。いずれの旗も構図や色使いが上手でなかなかの作品でした。



旗デザイン賞は青ブロックが獲得しました。またその他の表彰について紹介すると、2年生の追い上げを振り切って、「長縄跳び」を征したのは、3年B組で44回でした。また、各学年優勝は、1年生は、1年B組、2年生は2年A組、3年生は黄ブロックの3年C組でした。

なお、当日の駐車場状況についてお伝えしておきますと、上ノ山公園の大口利用団体とのバッティングは無かったものの、公園側から借り受けていた公園右手駐車場はほぼ満車状態になったとのこと。校内バレーコート駐車場等も満車でしたので、乗り合わせ等が重要な要素になっています。ご理解下さい。

◆◆ 各リーダーから寄せられる“感じたこと”の続編です。 ◆◆

黄ブロック ブロック長 3年C組

ブロック長と言う役をやらせていただき、色々な先生や友達に助けていただきました。一緒に考えてくれたり、悩んでくれたり、そんな人たちが周りにたくさんいたからこそ、体育祭が楽しく出来て成功させられたんだなと思いました。今年の体育祭は、黄色ブロックは優勝という目標に向かって、頑張ってきましたが、惜しくもその夢には届きませんでした。しかし、僕の個人目標の「勝っても負けても、最後は楽しく笑顔で終わる！」という目標は、僕だけではなく、ブロック全体が達成できたと思います。中学校最後の体育祭、色々な思い出がありました。どれも皆さんのおかげです。ありがとうございました。

黄ブロック 旗長 3年C組

今回僕は旗長としてたくさんの事を学びました。制作活動の初っぱなから、最終日、最後のミーティングに至るまで、僕は、旗係のメンバーに頼りない一面を見せることが多々ありました。そんな中でも、今年の黄色ブロックの旗係は、皆元気で、励まし合え、協力プレーができたからこそ、旗の完成に至ったのだと思います。また、このことから仲間の大切さ、仲間と協力することの大切さを改めて知ることができました。結果が「旗賞」という形にはなりませんが、僕達の作った旗がブロックに与えた力は、とても大きいものだと思えます。今回の活動で得た経験や思いを色々な人に伝え、これからは役立てていきたいです。

青ブロック 旗長 3年A組

今回私は、旗長として旗を作り「みんな」の存在の大きさを感じることができました。私は旗長になってすぐ、端のデザインを描き上げました。ずっと麒麟を描きたいと思って、ほとんど1人でデザインを描きました。けれど麒麟というテーマが、他ブロックの旗とかぶってしまいました。とても気まずい雰囲気の中、ずっと悩んでいると、旗係を中心とした青ブロックのみんな、旗賞をかけて戦うのはずの他ブロックのみんなが、意見を出したり相談にのってくれたり協力してくれました。今まで私は「旗は旗係が作る物」と思っていました。たしかに表に立って作っているのは旗係ですが、みんなの思いや気持ちを表現した物が旗だから、協力してくれる人達がいて旗は完成したから、麒麟をやめフェンリルを描こうと思えたのも、みんなが助けてくれたからです。だからこの旗はみんなで作ったと思っています。おかげで旗賞をとることができましたが、1番嬉しいのはみんなで作った1つのものを作り上げられたことです。最後の体育祭をこのような思い出にできてよかったです。

青ブロック 副ブロック長 3年A組

体育祭が終わり、最後のブロック集会の時、誰かが「今回の体育祭、楽しかった人手挙げてー！」と言いました。すると、青ブロックのほぼ全員が手を挙げ、笑っていました。思わず、私も手をびんと立たせて「はい！」と大きな声で言ってしまいました。その時、ふと、一番最初にやったブロック集会の時に、私が言った言葉を思い出しました。それは、「私は今回の体育祭で、優勝もねらっていきませんが、やっぱり誰もが体育祭が終わった時に、楽しかったと思えるようなものにしたいです。」と言った言葉です。私は、その目標が達成できた嬉しさとともに、副ブロック長としてがんばってきてよかったなと心から思いました。副ブロック長という仕事には、たくさんやまされましたが、その疲れも、青ブロック全員の笑顔を見たら一瞬にしてふきとばされ、自然に自分まで笑顔になってきました。そんな青ブロックの笑顔は、優勝なんかよりも、さらに大きく、言葉では表せられないくらいに輝いていました。

青ブロック ブロック長 3年A組

今年の体育祭は、中学生として迎える最後の体育祭であり、ブロック長として初めて迎える体育祭でもあり、とても緊張していました。おまけに私は、過去二年間でブロックリーダーというものを経験したことがなく、初めてのブロックリーダーがブロック長という状況でかなり不安もありました。ですが当日も準備期間もブロックリーダーの人や、他のブロック長たちが相談に乗ってくれたり、他の人が積極的に動いてくれたりして、何の問題もなく、進めることができました。当日は体育祭という舞台上で戦いましたから、勝ち負けがついてしまいましたが、三つのブロックが協力して、大きな問題もなく作り上げた、最高の体育祭だったと思います。また、私にとっても今までで一番の体育祭でした。このように終えられたのは、協力してくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。

◆◆ 5/31に第1回学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。 ◆◆

- 5月の教職員アンケート結果等を踏まえ、会議の中で出た主たる意見をご紹介します。
- 教職員をサポートする体制に対する数値が低いことに対して、管理職が必ず面談する機会を回数を増やしてあげたらどうだろうか。実際に悩みを抱えつつ、自分から思いを言えない人がいるのではないかと思う。→分掌が提案することに対し、学年会の考えで異なる方策を選ぶ場面などがあり、サポートやチームとしての一体感を感じられないという声があると認識している。声を聞く場面を意識していきたい。
 - 授業視察では、ICTを活用した授業が、視覚的にも、時短的にも効果的な感じがして、良いなと思えた。理科の元素カード授業も工夫を感じて良かった。全校、授業を落ち着いて受けていることが伝わってきた。
 - コミュニティスクールに地域の人をどの位引き込んでいけるかが課題で、難しいところだと思う。葉山町は人材は多いと思うが、町内会の役員のみ手がなかなか見つけられない現状を思うと厳しさを感じる。まだ、コミュニティスクールをしらない人が多い中、PTAのお母さん方などに理解が広まるのが鍵だと思う。→コミュニティスクール化へは、まだ準備期間があるので、教育懇話会等で話題にするなど、地域の理解の促進を時間を上手く使って進めていきたい。地域のコーディネーターが育つことも鍵になると思う。

◆◆ 「デジタル・タトゥー」という言葉の重みをしっかり捉えたいこの頃です。 ◆◆

3月の卒業式で当時のPTA代表グループさんによる、保護者代表の言葉の中で、「デジタル・タトゥー」という言葉が紹介され、大変な評判を呼びました。今現在は、NHK土曜ドラマで、同名のドラマが放映され、これも評判になっているようです。

SNSなどインターネット上で公開された書き込みや写真や住所氏名などの個人情報、一度拡散してしまうと削除するのがほとんど不可能になることから、消せない入れ墨(タトゥー)に例えた表現です。例えば、人を中傷する書き込みなどを行っていた人が、就職試験等で名前を検索され、過去の自分の書き込みが理由となって就職できなくなるなど、今の時代では常識化してきていることです。

近隣の学校ではLINEのトラブルがありました。デジタル・タトゥーの怖さが認識されているとは思えません。他校の事例をさらに紹介すれば、電車の車内で、他の学校の女子生徒の写真勝手に撮った行為でのトラブルがありました。怖さを自覚できていないことにとどまらず、インターネット時代の最低限のマナーが守れていない行為です。今度校内で実施しますが、スマホ・ケータイのマナー学習の重要性を改めて強く感じています。